

# ゼンソクの治療にIPPB

## 中央病院で新兵器を購入

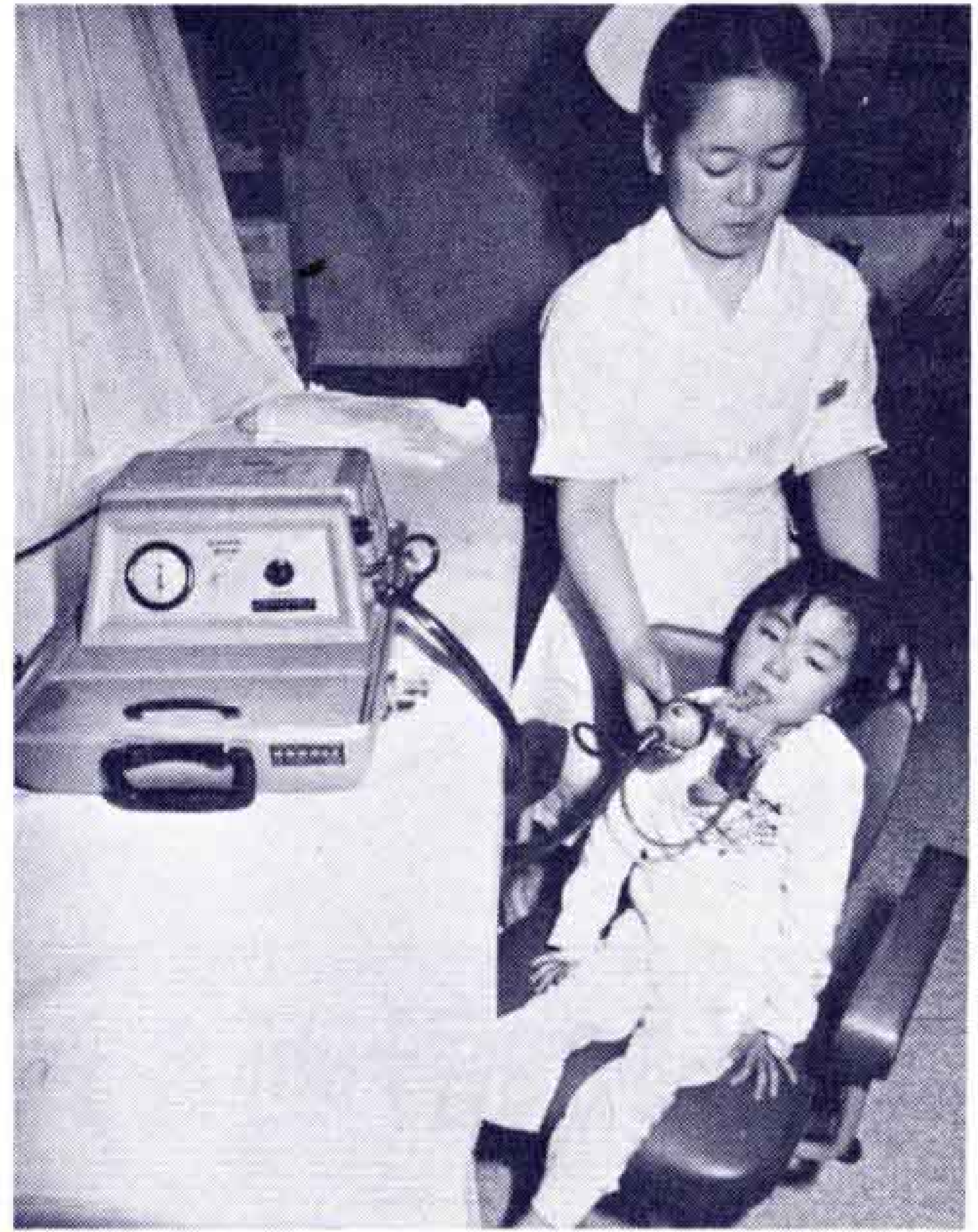
ゼンソク治療に新兵器が登場しました。市立富士中央病院で毎月第1、第3金曜日に国立小児病院からゼンソクの専門医が来院して検査や治療を行なっていますが、治療にIPPB（間欠的陽圧吸入器）を使つて効果を上げています。

ゼンソクの発作が起つた時の治療方法のひとつとして、吸入療法が用いられていますがこれまではモーター吸入器によつて行なつていました。ところが、モーター吸入器は、患者の呼吸に関係なく薬を一方向的に噴霧するだけで、吸いこむ力のない重症患者にはあまり効果がありませんでした。しかし、こんど購入したIPPBは、モーター吸入器に比べ3つの利点があり、治療効果もバツグンです。

第1に患者の呼吸に合わせることができるので、呼吸困難がおこらない。第2に噴霧液に圧力をかけるので、気管支のすみづみまで薬が届く。第3に息を吸い込む時だけ薬が出るので、薬のむだがないことです。

このIPPBはゼンソクの治療にかかせませんが、市内には中央病院だけにしかありません。現在、IPPBで治療を受けているのは1日に外来患者が2~3人、入院患者が3~4人で、1回の治療に20分ぐらいかかります。

なお、IPPBはゼンソクの治療だけでなく、手術用の吸入器としても使つています。



【患者の呼吸に合わせることができるので治療効果もバツグンのIPPB】

# コいの稚魚が予想以上に成長

昨年8月と10月の2回にわたつてコいの稚魚26,000尾を田宿川や上堀、小潤井川など17河川に放流しました。その後、放流したコいの稚魚のせい息、發育状況は定期的に観察してきましたが、2回ほど小潤井川で浮きあがつたほかは、各河川ともほとんどの稚魚が順調に育つています。

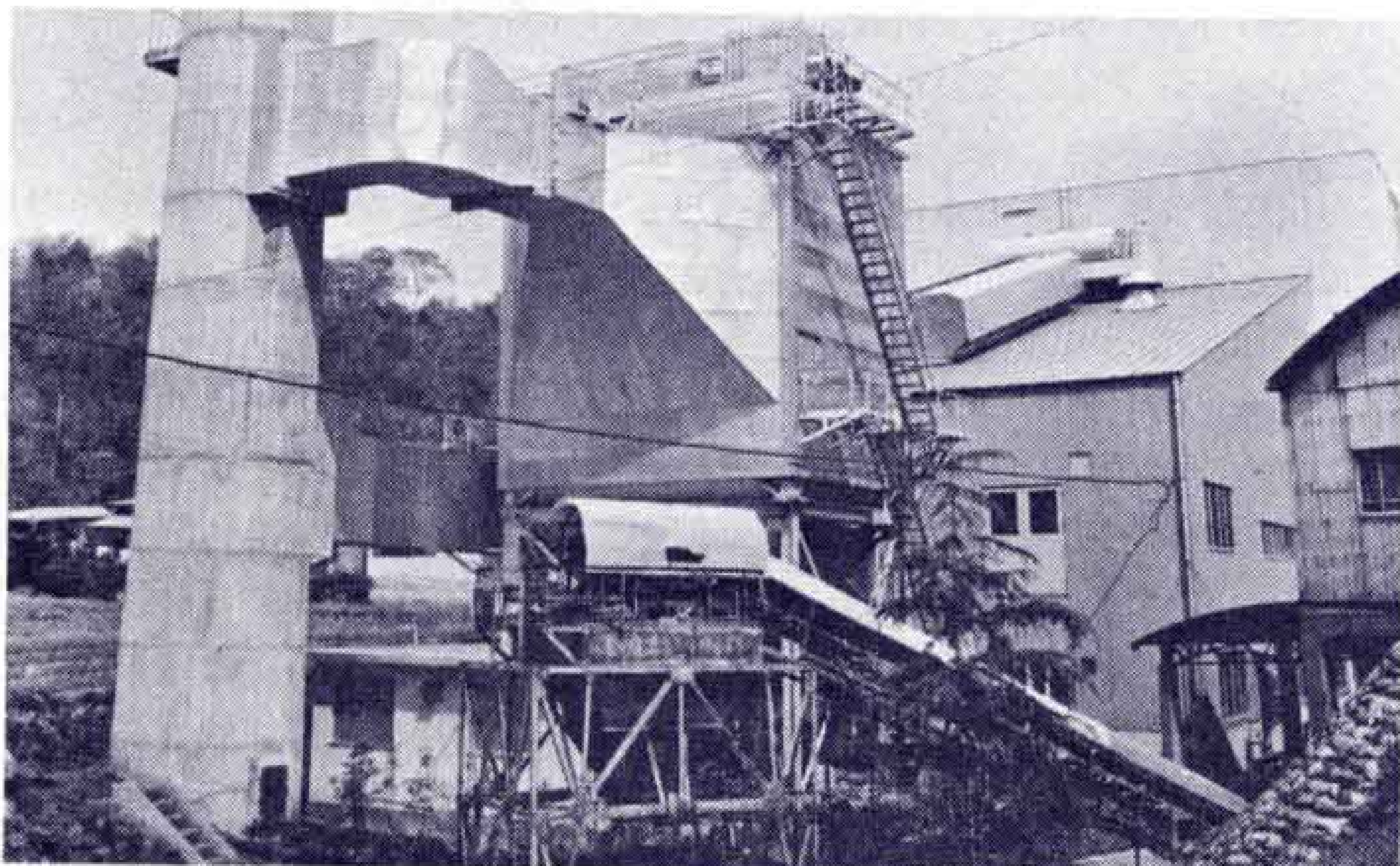
4月に入つて水温もあがつてきたので、發育状況を調べるため、

上堀で3尾のコイをすくいあげたところ、体長8センチから12センチに成長していました。放流したときは3センチから5センチくらいでしたから、1年たたない間に倍以上に成長したわけです。

また、定着率の調査も行なつたところ、各河川とも20%以上と予想以上によく、市内の河川の水が浄化されていることが実証されました。



【放流したときの2倍以上になったコイ】



【第1清掃作業所の建設にも融資が】

# 厚生年金や国民年金から融資

市が行なういろいろな事業に、厚生年金保険や国民年金保険から融資を受けています。昭和47年度の事業で、融資を受けたものは次のとおりです

厚生年金保険からは、第1清掃作業所のゴミ処理施設に1800万円、ゴミ運搬車購入に660万円です。特に、ゴミ処理施設整備事業には3年間継続で、合計1億1600万円が還元融資されています。

国民年金保険の特別融資は、元町保育園に700万円、精神薄弱者授産施設（くすの木学園）収容棟建設事業に600万円、さらに6月オープンする市民プールの建設に2800万円がそれぞれ融資されました。